

# 総合的な学習の時間 研究資料

飯田市立竜東中学校



全校研究テーマ 自分と向き合い、自らの意見を深める授業をみんなでつくる

総合的な学習の時間 研究テーマ

主体的・対話的で深い学びを実現する質の高い探究ができる授業づくり

日 時 令和7年10月29日（火）

共同研究者 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 齋藤博伸 先生

授業学年 3学年（男子7名、女子12名 計19名）

授 業 者 月岡純平

単 元 名 竜東ツーリズム～農家民泊から考える、人口減少するふるさとに自分たちができること～

## 竜東学園飯田市立竜東中学校 開催要項

### 個人研究テーマ

主体的・対話的で深い学びを実現する質の高い探究ができる授業づくり

1 期 日 令和7年10月29日（水）

2 会 場 竜東学園飯田市立竜東中学校

3 共同研究者 齋藤 博伸 様  
（国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官）

### 4 日 程

（1）受 付 13：10～13：20 【 職員玄関 】

（2）授業公開 13：30～14：20 【竜東中学校被服室】

①授 業 者 月岡 純平 教諭

②教 科 総合的な学習の時間

③授業学級 3年A組

④単 元 名 「竜東ツーリズム～農家民泊から考える、人口減少する  
ふるさとに自分たちができること～」

（3）開会行事 14：25～14：35 【竜東中学校パソコン室】

①主催者挨拶 信濃教育会研究調査部部長 和田 敦 様

②会場校挨拶 飯田市立竜東中学校長 江口 尚

③諸連絡

（4）授業研究会 14：35～15：20

①研究説明および授業者より

②意見交流

（5）講演会 15：25～16：30

講師 共同研究者 齋藤 博伸 様

演題 「 質の高い探究的な学びを実現する総合的な学習の時間 」  
質疑

（6）閉会行事 16：35～16：45

①授業者挨拶 飯田市立竜東中学校 月岡 純平

②会場校挨拶 飯田市立竜東中学校長 江口 尚

### 5 その他

- ・各自、上履きをご持参ください。
- ・駐車場は、別紙駐車場案内をご覧ください、指定の場所をご利用ください。
- ・その他ご不明な点がございましたら、担当までご連絡ください。

竜東学園飯田市立竜東中学校 教頭 小林 晋  
Tel 0265-27-3169

## I. 研究テーマ

主体的・対話的で深い学びを実現する質の高い探究ができる授業づくり

## II. 研究テーマの設定理由

### ① 研究の背景

竜東中学校のこれまでの総合的な学習の時間における「ふるさと学習」は、地域の人やもの、こと（体験）と関わる機会があったが、単発的な活動が主で子どもたちが主体的に学んでいるとは言い切れないものであった。そこで、山間地小規模校で、人口減少などの課題を抱えるこの地域に生きる子どもたちにふるさと学習を探究的に学び続けてほしいと願い、学習内容を見直すこととした。そして、ふるさと学習を軸に探究の過程を繰り返しながら、小中高の学びの接続も研究テーマとして2年前から子どもたちと一緒に実践をはじめた。3年目になり、3年生はふるさと学習をこれまで2年間積み上げてきた経験を活かし、より探究が深まるにはどんな手立てが必要か考えることを研究の軸とした。

### ② 研究テーマ

【重点①】「ふるさと学習」を軸とした総合的な学習の時間

本校は、千代・千栄・上久堅・龍江地区にある4小学校から入学してくる。どの小学校も少人数ではあるが、地域の題材を扱った教育活動を行い、地域の特徴を生かした「ふるさと学習」を進めている。

一方で、中学卒業と共にほとんどの生徒が飯田市街地の高校に通い、高校での「総合的な探究の時間」では市街地の題材が多いため、出身地域に関わる学習の機会が大きく減ってしまう現実がある。そのため、中学校までの活動の中でいかにふるさとに対する課題意識を持ちながら活動できるかが大切である。また、その中で自分を地域の一員と捉え、そこに生きる人として何ができるか、自分の生き方について考えを深めることができるようになってほしい。そこで、「ふるさと学習」を軸にして、「地域の現地・現物・現実」を中核に探究を重ねていく授業づくりについて研究を進める。

【重点②】小中高のつながりを意識した「総合的な学習の時間」

高校では「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」となり、自己の在り方や生き方を考えながら自ら課題発見することに重点を置いて、課題解決に向けて個人や仲間と共に探究活動に取り組んでいる。高校での自ら問いを立て、解決に向けて取り組む総合的な探究の時間につなげるためには、問いを立てる経験や、情報を整理・分析する経験など、探究の過程を大切に学びを積み上げていく必要があると考えた。そこでふるさと学習では、地域の魅力と課題に向き合いながら探究の過程を繰り返し連続していく中で、探求学習に必要な基礎的な知識や技能を身につけようと考えた。また、小学校において各地域の伝統文化を学んできた経験を活かし、中学校では、互いの地域を知ること、視野の広がりを実感し、さらに多面的・多角的な視点で地域の魅力や課題を捉える。

また、質の高い探究、高校とのつながりを大切にする点で、探究の高度化についても視野に入れ実践を進める。探究の高度化とは、①探究において目的と解決の方法に矛盾がない（整合性）、②探究において適切に資質・能力を活用している（効果性）、③焦点化し深く掘り下げて探究している（鋭角性）、④幅広い可能性を視野に入れながら探究している（広角性）などのことから捉えられることである。

### III. これまでの生徒の学びの様子

#### ① 1年次の学び

##### 単元「竜東地区の魅力はなんだろう」

##### ○ふるさと再発見の旅

竜東中学校に進学をしてきた子どもたちが、自分の暮らす地域以外の良さを発見したり、自分の住んでいる地域の良さを他の地域出身の級友に伝えることを通して再確認をしたりする目的で、3つのグループに分かれフィールドワークを行った。フィールドワークの行き先は、行き先の地域に暮らす生徒を中心に決め、地域にある観光名所等を巡った。また、どのチームも必ず地域の人からお話を伺う場面を設定し、公民館長や公民館主事、地域おこし協力隊の方からの話をそれぞれ聞いた。

ふるさと再発見の旅のまとめの活動として、「ふるさと自慢大会」と称して、フィールドワークで実際に見たり聞いたりしたことの中で、自分が最も魅力であると感じたことを1つ決め、そのことについて紹介あった。

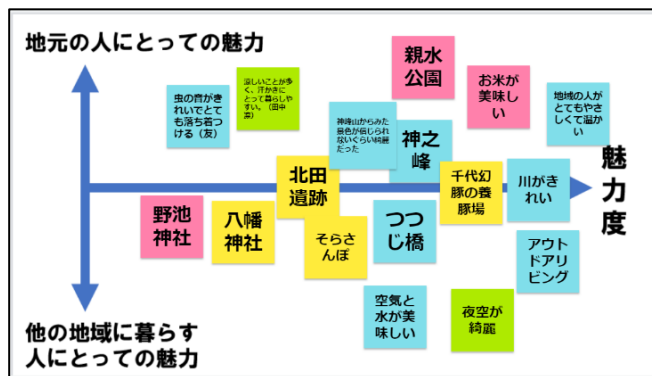


##### 南信州アウトドアリビングに行った生徒の感想

私はこのキャンプ場に行く前は全然龍江を誇らしく思っていなかったけど、このキャンプ場に行ってから、龍江にはこんなにゆったりできるところがあるんだと誇らしく思えるようになったのでここにいて良かったと思いました。

この生徒は、龍江地区在住でこれまでは自分のふるさとに誇りを持てていなかったが、地域おこし協力隊の方などが運営をする「南信州アウトドアリビング」を地域の魅力と捉えた。

##### ○ふるさと竜東の魅力を出し合い、整理・分析をしよう



ふるさと再発見の旅の後、地域の人(両親や祖父母中心)に聞き取りを実施した。ふるさと再発見の旅や聞き取りで集めた地域の魅力を出し合い、集めた魅力が誰にとって魅力なのかを整理・分析を行った。整理・分析をした結果、子どもたちは、他の地域に暮らす人にとっての魅力について考えてみたいと思い、魅力度の高い「南信州アウトドアリビング」について考えていくことにした。

##### 単元「南信州アウトドアリビングは何のために運営をするのだろう」

##### ○南信州アウトドアリビングとの出会い(問いの設定)

| 南信州アウトドアリビング |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|--------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 9月 2023      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 月            | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  | 日  |    |    |    |    |    |    |    |
| 28           | 29 | 30 | 31 | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 |
| 11           | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25           | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  |

左の資料は実際に子どもに提示したものである。南信州アウトドアリビングは、「一日一組限定」というコンセプトを持っている。一方で、比較をした陣馬形キャンプ場は多くのお客さんが宿泊できる。それを説明したうえで比較をしてみると、子どもたちから「予約の空きが多い」「これじゃお金儲けにならないじゃん」という思いを抱いた。そんな思いを抱いていた子

どもたちに、地域おこし協力隊の方は、「お金がもうからなくてもいいんです」と伝えてくれた。その言葉から子どもたちは、「なぜ南信州アウトドアリビングは運営されているのか」という問いを持った。

○アウトドアリビングの運営目的について考える。

お金儲けのためじゃないなら何のためにキャンプ場を運営しているのか考えた子どもたちは、地域の魅力を伝えるために運営をしているのではないかと仮説を立てた。その仮説を基に、自分たちが地域の魅力を生かしてキャンプ場をつくるなら、どんなキャンプ場にするのか考えることにした。



左の資料にあるように、自分たちが地域の魅力を生かしてつくるキャンプ場のポスターを制作した。中身については、現実味のないものもあったが、ふるさと再発見の旅で実際に行ったり、見たり、聞いたりしたものを取り入れていた。そして、自分たちがつくったポスターの説明を行い、地域おこし協力隊の人にも聞いていただいた。

その後、地域おこし協力隊の方から南信州アウトドアリビングの運営目的は「地元の魅力を伝え、「関係人口」を増やすためにキャンプ場を運営している」ということを教えていただいた。

そのことから、子どもたちは、地域のために本気になっ

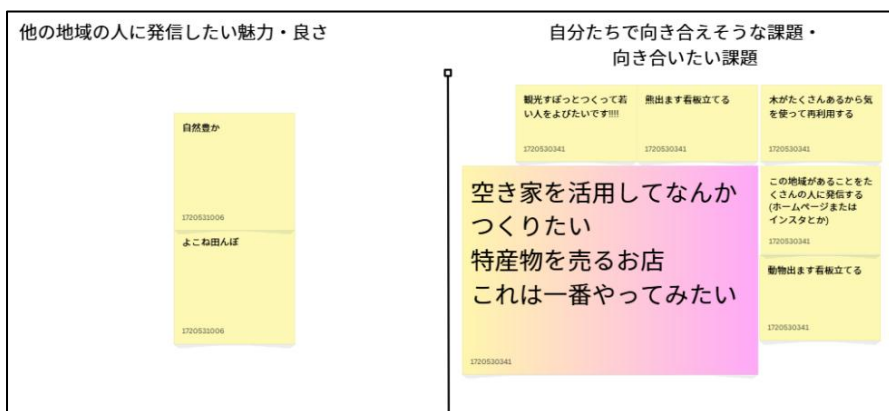
ている大人と出会い、学ぶことを通して、地域のために自分たちが  
ができることを考えてみたいと願いを持つようになった。



## ② 2年次の学び

1年次の学びを振り返る中で、子どもたちは、人口減少するふるさと竜東をいろんな人に知ってもらいたい、来てもらいたいという思いを抱き、そのために地域の魅力をPRしたいと考えた。

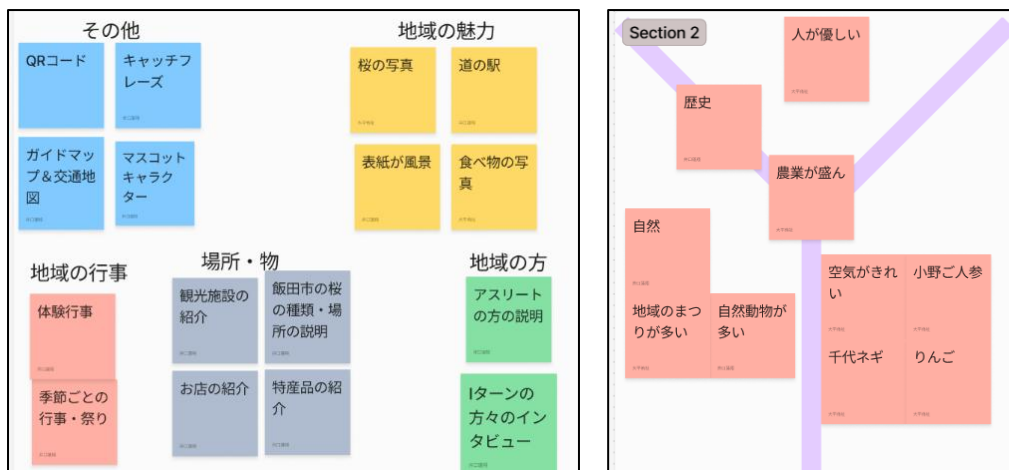
### 単元 ふるさと竜東の魅力と課題の再整理・分析



地域の魅力をPRするためには、魅力にどんなものがあるのか出すこと、PRが地域の課題の解決につながるものでありたいと考え、地域の魅力と課題を、地域の人(知り合いの先輩や後輩等)に聞き取りをした。集めた情報を整理し、今後の自分たちの活動の見通しを持った。子どもたちは、ふるさとをPRする

パンフレット、他の地域に暮らす人を呼び込む道の駅的なものをつくりたいという願いを持った。

## 単元 ふるさと竜東のパンフレットをつくろう



他の地域の紹介パンフレット(ふるさとパンフレット大賞の受賞作品や近隣自治体のもの)を見比べることを通し、パンフレットに載せるために必要な情報を整理した。整理をすることを通して、パンフレットに載せる情報は「人・もの・こと」に分けることができそうだと気づき、竜東地区の魅力をYチャートでまとめた。整理した情報を基に、パンフレットを作成し、地域の人にも見てもらい、感想をいただいた。

パンフレットづくりやパンフレットを地域の人に見てもらい感想をいただくことを通して、自分たちの



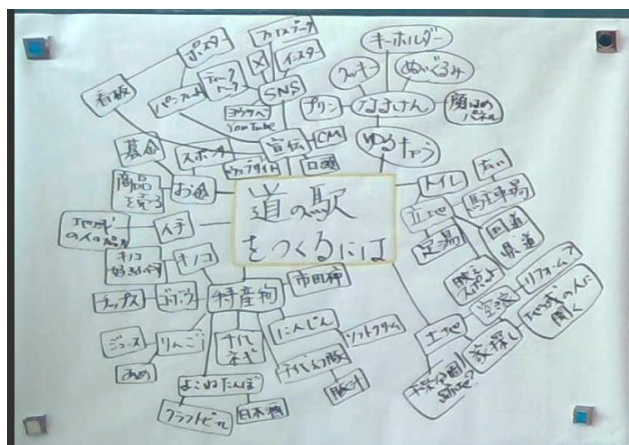
パンフレットは、改善点はあるものの地域の魅力をPRするのに使えるかもしれないという思いを持った。一方で、そもそもパンフレットだけでは、人が集まらないのではないかと考えるように。また、パンフレットの感想をいただく際に合わせて行ったアンケートを通じて、買い物ができる場所や地域で集まる場所が少ないことが地域の課題であることを知った。

そのような学びから子どもたちは、

- ・私たちは、県外の人に来てもらうことを想定した道の駅をつくろうと思っていたけれど、商業施設がないことなどに困り感を地域の人も感じているから、その人たちのことも考えるのも大切
- ・道の駅をつくるには、PRをする人、売るものを考える人など、役割分担が必要!

と考えるようになった。

## 単元 ふるさと竜東に道の駅をつくる準備をしよう



パンフレットだけでは人を呼び込むのは難しい、地域の人買い物ができる場所、集まれる場所が少ないという課題を解決したいと考えた子どもたちは、「道の駅」をつくる活動をしたと考えた。そのために必要なことを書き出し、マインドマップを作成し、4つのチーム(空き家・特産物・PR・ゆるきゃら)に分かれて活動しようと考えた。(この学びは3年生の5月ごろまで続いた)

### ③ 3年次の学び(本時まで)

子どもたちは3年生に進級後も2年生の後半で設定した「道の駅」をつくるためにそれぞれのプロジェクトチームで学習を進めていたが、6月に地域おこしに取り組んでいる人のお話を聞く場を設けたところ子どもたちの思いが揺さぶられた。

上久堅地区を盛り上げようとしている北沢さんから話をしていただいた。そこで地域おこしについて取り組んでいることを聞く中で、地域の人たちに、北沢さんの取り組んでいる地域おこしの活動を反対する人がいることを知る。そのお話を聞いて、自分たちがやろうとしていることも、地域の人に喜んでもらえるのか、これまで、地域の人の声を聞いてきたつもりだけど、聞き取りの人数が少ないことや、幅広い年齢層の聞かずに活動をしてきてしまったかもしれないと思い、せっかくなら多くの人に受け入れてもらえるような活動をしたいと考えるようになった。

### 単元 地域の人の声を聞き、ふるさと竜東に自分たちができることを見つめなおそう

○地域の人の声を集めて、集めた情報を整理・分析しよう

なるべく多くの人の声を集めたいという思いから、インタビューとアンケート調査を同時に行うようにした。また、なるべく多くの声を集めることができるように近所の人に話を聞いたり、区の常会に行く家族についていき、参加者にアンケートを配り回答してもらったり、という方法で3週間程度実施し、約90名の地域の方から回答してもらった。

集めた情報を質問項目ごとに分け、それぞれのグループごとに1つの質問項目を担当し、整理の方法は各グループに委ね、KJ法、テキストマイニング、数直線、座標軸等で整理し、分析を行った。

#### 竜東地区についてのアンケート調査 アンケート用紙

竜東中学校三年生生徒

私は、総合的な学習の時間で、ふるさとをテーマに学習しています。そして私は、自分たちのふるさとがずっと残ってほしいという願いから自分たちができる地域貢献について考えています。そのために地域の方の思いを知る必要があると思いました。アンケートへのご協力よろしくお願いします。

・当てはまるものに○をお願いします

年代： 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上

出身の地域： 県内 県外

県内出身の方は具体的にどこをお願いします。飯田市の方は地区名までお願いします。(記述をお願いします)

住んでいる地区を教えてください。

上久堅 千代 千栄 龍江

この地区に住んで何年ですか？

5年未満 5～10年未満 10～20年未満 20～30年未満 30年以上

・記述での回答をお願いします。

1.現在住んでいる地域の良さはなんですか。

2.現在住んでいる地区の課題はなんですか？またその解決方法でお考えがあればお願いします。

3.現在住んでいる地区が今後どうなっていきたいですか？

4.（県外などからの）移住を目的とした地域おこしの活動についてどう思いますか。

5.竜東中学校区内の他の地区とのつながりを感じる場面はありましたか。

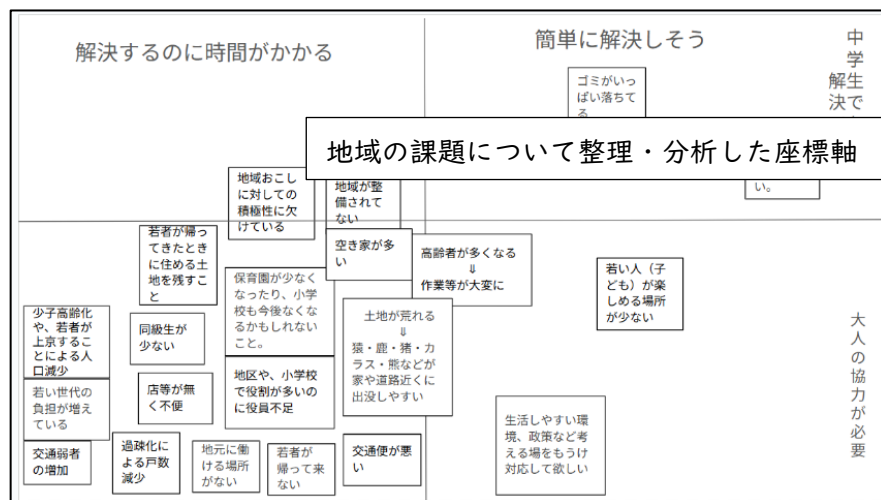
はい いいえ

6.（はいと回答した方）どんな場面で感じますか。また、つながりは十分だと思いませんか。

（いいえと回答した方）つながりがない理由として考えられることはありますか？また、他地区とのつながりは必要だと感じますか。

以上となります。回答ありがとうございました。

生徒が実施したアンケート



#### 生徒のアンケートの分析結果

○地域の魅力について⇒地区別に分析をしたが、魅力は重なることが多い

○地域の課題について⇒解決をするためには大人の協力が必要な課題が多い

○今後この地域について⇒Iターンなどの移住・現状を維持したいという声が多数だった

○地域おこしについて⇒賛成と反対を数直線で整理。年配の方に反対する人がいるものの多くの人が賛成していることが分かった。

○地区同士のつながりについて⇒つながりを感じる人と感じない人が半々くらいだった。

つながりを必要としていない人も一定数いることが分かった。

整理・分析をした結果、地域おこしの活動自体を知らない人達は一定数いるものの、賛成をしてくれる人が多数であると知った。アンケートの結果を踏まえ、地域の課題である「人口減少」や今後のこの地域について「移住者を増やしたい」という地域の人の思いを基に取り組むことを考えたいと願った。そして、人口減少対策が背景に含まれている「いいだツーリズムビジョン」という飯田市の観光に関する取り組みに出会い、地元の「農家民泊」に着目するようになった。(本時単元に続きます。)

#### IV. 共同研究者の齋藤先生との共同研究を通して

共同研究者の齋藤先生とは、オンラインを通じて4回ほど授業について話し合いました。

齋藤先生と授業づくりを進める中で、私の実践はこれまで子どもの主体性ばかりを優先させてしまい、地域の人の想いというものには考えが向いていなかったことに気づいた。

そして、以下の3点について教えていただき、私の実践の軸にすることにした。

##### ①ふるさと学習は人との関わりが大切であること

ふるさと学習は、「地域の現地・現物・現実」を中核に探究を進める。そのために、地域の人とのかかわりを大事にしていくことを意識して実践を進めた。また、子どもたちは、現実を知るために、市役所の職員の方や民間の観光会社の方など地域住人以外の方とも積極的に関わりを持った。いろんな人と関わることを通して、視野が広がり、多面的・多角的に考える場面が増えた。

##### ②入り口は狭く、子どもたちと何をするのかを明確にすること

探究課題を設定する際には、終わったときにどんなことだったら続きがあるのかを考えることが大切である。大人が真剣に取り組んでいること・楽しんでいることは探究になりやすいということを教えていただいた。その中で、初めから入り口を広げすぎてしまうと何を大事にするのかが薄れてしまうので、子どもたちと何をするのか明確にするために入り口を狭くすることが大切であると教えていただいた。実践で生かすと、入り口を狭くすることで、目指す子どもの姿も明確になり、評価もし易くなった。

##### ③1時間の授業の中で、学習問題→まとめ→次時の見通し→ふりかえりの流れを大事にすること

学習問題はなるべく疑問形で設定し、必ずまとめを書くこと。そして、まとめを書いた後に子どもに次時に何をするのか問いかけると、課題が明確であると子どもは次やることに見通しを持てているので、次やることが子どもたちの声から出てくる。(この姿が主体的であると言える。) そして、本時の振り返りを書くとき本時の自分を見つめることができると助言をいただき実践をした。まとめと振り返りの活動を両方行うことを通じて、振り返りの場面では、これまでの学んだことを活用しながら一人ひとりが本時の活動で考えたことや今後の見通しを持てるようになった。

## V. 本時について

### 1. 単元名 竜東ツーリズム～農家民泊から考える、人口減少するふるさとに自分たちができること～

### 2. 単元の説明

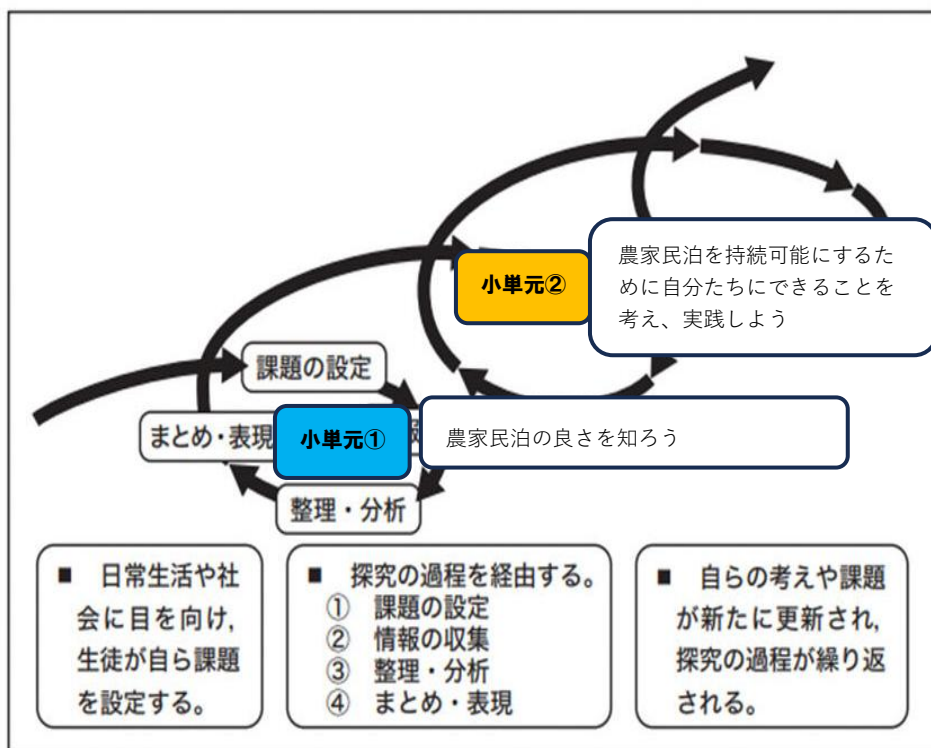
子どもたちはこれまでの探究を通して「この地域がなくなってほしくない、長く続いてほしい」という願いを持ちました。前単元で地域アンケートを実施し、「人口減少、少子高齢化という地域の課題に対して、自分たちのできることを考えたい」という方向性を見出しました。そして、人口減少対策が背景に含まれている「いいだツーリズムビジョン」という飯田市の観光に関する取り組みに会い、地元の「農家民泊」について考えを深めたいと思うようになりました。地元の活動を通して、過疎の進む農村、高齢化、農家体

験、教育旅行の可能性等、さまざまな現実に変更して出会うことを通して、地域の観光資源の魅力や価値を見だし、積極的に情報収集をしたり、集めた情報を整理・分析し広めたりする活動を通して、単元の目標にある資質・能力を目指したものである。

### 3. 単元の目標

農家民泊の良さを知り、それを広める活動を通して、地域の観光資源の魅力や価値、それらを支える方の努力や工夫を理解するとともに、農家民泊の持続可能性について考え、地域と協働しながら地域が長く続くために自分たちができることを考えて行動できるようにする。

### 4. 評価規準



| ア 知識・技能                                                            | イ 思考力・判断力・表現力                                                                                                                                                                                        | ウ 主体的に学習に取り組む態度                                           |
|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| ① 地域との関わりの中で、自分の住む地域には、固有の魅力や価値があること、それらを支える方の努力や工夫をしていることを理解している。 | ① 地域の実態から課題を設定し、解決に必要な具体的な取組みについて見通しを持っている。<br>② 体験的な活動を通して、農家民泊の活動についての情報を集めている。<br>③ 農家民泊の活動について集めた情報を整理・分析し、問いの設定や課題の解決に向けて考えている。<br>④ 農家民泊に関する活動を振り返る中で、自分自身の変化や地域の持つ課題に気づき、これから取り組むことを明らかにしている。 | ① 農家民泊の活動を生かし、地域の課題を解決するために、地域と協働しながら自分のできることを取り組もうとしている。 |

## 5. 単元展開 (28 時間)

| 小単元名(時数)                             | ねらい・学習活動                                                                                                                                                                      | 知 | 思 | 態 | 評価方法                             |
|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|----------------------------------|
| 1 農家民泊の良さを知ろう<br>(12)                | ・「いいだツーリズムビジョン」(飯田市の観光ビジョン)について知り、その背景に人口減少や高齢化があることを知り、これまで地域の人から聞き取って知った地域の課題と重なることに気づく。<br>・いいだツーリズムの内容を読み込むことで、竜東地区の「農家民泊」もその一つであることに気づき、農家民泊の取り組みから、地域の課題について考える課題を設定する。 |   |   |   |                                  |
|                                      | ・農家民泊の良さを知るために、民泊を体験した人・民営む人・役所の人等への聞き取りをし、情報を集める。                                                                                                                            |   | ② |   | ・聞き取りの計画<br>・聞き取りの様子             |
|                                      | ・集めた情報を整理し、民泊の魅力や価値、民泊を支える方の努力や思いについてまとめる。                                                                                                                                    | ① |   |   | ・整理・分析シート<br>・振り返り<br>・まとめ       |
| 2 農家民泊を持続可能にするために自分たちにできることを考えよう(16) | ・前小単元の学習で学んだ農家民泊の良さや、課題を基に課題を設定する。(PMI シートを用いて考えを整理する場面を設定する)<br>・農家民泊を持続可能にするために必要なことを考える。<br>(良さを広める…都会の人に良さを PR する課題に向き合う…後継者を増やすために、民泊をすることで得られる経験を PR する)                |   | ① |   | ・発言<br>・PMI シート<br>・活動の様子        |
|                                      | ・PR をするために必要な情報を整理する。<br>(必要に応じて聞き取り等も実施する。)<br>・PR について専門的な知識を学ぶ。(インフルエンサーや広告業者などの外部講師から学ぶ機会を設定する)                                                                           |   | ③ |   | ・活動の様子<br>・振り返り<br>・活動の様子<br>・実際 |
|                                      | ・実際に PR 動画を制作する。<br>・制作した動画等を専門家や実際に民泊を営んでいる方に見てもらい、改善点を見つける。<br>・PR 動画等を完成し、実際に PR を行う。(可能であれば、SNS 等双方向性のある形で PR する)                                                         |   | ④ |   | ・活動の様子<br>・振り返り                  |
|                                      | ・単元全体を振り返り、自分が考えたり、学んだりしたことや今後考えていきたいことを振り返りシートに記入する。                                                                                                                         |   |   | ① | ・振り返り                            |

## 6. 本時案については当日配布します。

ようこそ竜東中学校へ

〒399-2221

長野県飯田市龍江 9205

TEL 0265-27-3169

FAX 0265-27-4729

メール [ryutojh@ed.iidanet.jp](mailto:ryutojh@ed.iidanet.jp)



#### 【校舎配置



駐車場は、プール西側奥(テニスコート奥)か、体育館南側校庭の端へお願いします。

<申し訳ありませんが、誘導係はおりません>